



RI 会長/李 東健
ガバナー/片山 主水
会長/熊谷多津旺
幹事/山口 直彦
クラブ情報委員長/尾本 和弘

[名古屋東南ロータリークラブ]
承認/1969年3月12日
事務局/名古屋マリオットアソシアホテル
〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号
名古屋マリオットアソシアホテル 2203号
TEL.052-583-0010 FAX.052-583-0009



1955 回例会

2009年1月14日(水) 晴 第25回

斉唱 「四つのテスト」
出席 会員 94名 出席 56名
出席計算人数 78名
出席率 71.79% 前々回修正出席率 80.00%

会長あいさつ

(会長 熊谷多津旺君)



相撲ファンの人の前ではあまり話したくないのですが、昔、双葉山というものすごい力士がおりまして69連勝したということでありまして。その70連勝のかかった日が1月15日でした。その日、安藝ノ海に負けて69連勝で終わってしまったということです。今の横綱の朝青龍が35連勝、千代の富士が53連勝という記録を持っているのですが、双葉山がすごいのは、今は1年間に6場所あるのですが、1930年代には2場所しかなく、しかも1場所が11日だったようです。双葉山はその時代に出てきて、連勝を始めたのが1936年の5月場所からでした。このときはまだ1場所11日間で、1937年に1場所13日間に変わり、1939年に15日間になりました。だから、1年に2場所しかなくて、しかも1場所11日間の時代では、69連勝するのに3年かかったわけです。ということは、双葉山は3年間無敵だったわけですね。相撲ファンの人には常識かもしれませんが、昔の人はすごかったんだなあと思います。今、日本人の横綱がないということは大変残念なことです。

幹事報告

(幹事 山口 直彦君)

1. 本日、40周年記念特別委員会を、13時45分より、17階「パイン」で行います。
2. 本日18時より、第1合同委員会を鳥久で行います。
3. 1956回例会後、17時から、例会場と同じ16階「アゼリア」で、ロータリー研修委員会大西委員長による新会員のかたのオリエンテーションを行います。新会員のかたは出席をお願いします。

4. 1956回例会「新会員歓迎夜間例会」を18時から、16階「アゼリア」で行います。

ニコボックス

*エチオピアで誘拐されていた「世界の医療団」赤羽さん無事帰国されました。

浜崎 明君	橋爪 務君	平松 育夫君
堀田 努君	石田 晴信君	石丸 洋君
伊藤 秀雄君	伊藤 護君	伊東與有三君
岩崎 誠二君	川田美代子さん	河合幸子さん
鬼頭 弘君	久野 博淳君	牧野 弘明君
宮田 隆夫君	南雲和江さん	仲村 忠彦君
生井 俊夫君	野村 延彦君	尾本 和弘君
大西 弘高君	佐久間貞介君	清水 利男君
下郷 卓弥君	住田 和海君	竹澤直美さん
宇田川一昭君	藁谷喜世志君	山口 直彦君
山口 剛男君	山原 武君	上村 恭司君
松田 實君	奥出真紀夫君	彦坂紀都さん
後藤 二郎君		

*来る1月21日より26日まで初春恒例のジェイアール名古屋タカシマヤ「日本の伝統展」に出展いたします。是非おいで下さい。

橋爪 務君

*宮寄さん、写真ありがとうございます。山口 直彦君
*既にご案内のとおり「グルメ同好会」は2月18日(水)に開催致します。お蔭様で、当日の参加希望者は既に20名に達しましたので、今回は締切りとさせていただきます。

仲村 忠彦君

*娘が先日成人式を迎えることが出来ました。

住田 和海君

本日合計 55,000円 累計 1,309,110円

結婚記念日おめでとう

◇1/20 山口 直彦君	◇1/20 中島美恵さん
◇1/24 坪内 協致君	◇1/26 堀田 努君
◇1/30 伊藤 秀雄君	◇1/31 青山 和暁君

行事のご案内

1月29日(木) 4RC 合同夜間例会
会場 ヒルトン名古屋 受付 17:30 ~
例会 18:00 ~ 18:30 懇親会 18:30 ~ 20:00

地区報告

●地区幹事 宮崎 薫さん

米山・財団の学友が中心となる新しいクラブが設立されます。「中部未来 RC」という名前です。当 2760 地区と 2630 地区（岐阜・三重）が共同で設立することを予定しております。今週から第 1 回の仮例会がスタートします。例会日は毎週金曜日、19 時から 20 時、錦 2 丁目の豊島ビル 3 階ガバナー分室で開催します。学友による RC は、正式に認められますと日本では 3 番目になります。二つの地区が共同で設立するということになり、日本では初めてです。5 月 24 日に設立総会と認証式を予定しております。

仮例会とはいえメーキャップ可能ですので、皆さんにも見ていただいて、いろいろ参考意見をお聞かせいただきたいということです。特に財団、学友、米山に関係のあるかたは一度出ていただきたいと思っております。

同好会報告

●テニスの同好会 鈴木 雅雄さん

<第 1 回開催日時のお知らせ>

テニス同好会の第 1 回会合のご連絡を申し上げます。

テニス同好会入会者並びに入会希望者は、友人・ご家族お誘いの上でご参加下さい。出欠のご返事は人数も含め 1 月 20 日迄にロータリー事務局へお願い致します。

日時：平成 21 年 2 月 1 日（日） 午後 1 時～ 3 時

場所：名古屋市緑区鳴海町諸の木 11-3

諸の木テニスクラブ

電話 052-877-2171

費用：1 人 2 時間 3000 円の予定

（内訳：プレー代 2 時間 2000 円+飲食代・ボール代 1000 円）

元名古屋東南 RC 会員であった杉山さん（歯科医師）が諸の木テニスクラブの会員であり、コートの予約をしていただきました。当日も快く参加して頂けます。

卓 話

●『職業奉仕について』

職業奉仕委員会 委員長 玉木 大介さん



今日は「四つのテスト」を英語で勉強したいと思います。

この歌を紐解くと、1934 年にシカゴのハーバート・テラーさんがつぶれかかったアルミ工場の再建を依頼され、そのときに実践したスローガンに行き着きます。まず、前文を見ますと、THE FOUR-WAY TEST of the things we think, say or do となっています。日本語文は「言行はこれに照らしてから」となっていますが、重要な think の訳が抜けています。「物事を考えて、言って、行うとき、その方法や手段に関して考慮すべき四つの問いかけ」という意味で解釈すべきだと思います。英文では FOUR-WAY TEST となっております。FOUR と WAY がハイフンでつながっています。したがって TEST という単語も複数ではなく単数になっています。FOUR-WAY は 4 本の道ではなく十字路、四つ角で、「正しい進路を思いめぐらすべきところ」の意味ではないかと解釈しております。つまり、この四つの言葉は四つで一つということです。この四つともできなければ、このテストに合格したことにならないと思います。それで、すべてクエスチョンマークのついた疑問文

になっており、自分に対して問かける形式になっているのです。

では 1 番から見ていきます。Is it the TRUTH? 「真実かどうか」です。自分の言っていること、行っていることにうそ偽りはないか、それを自ら判断しようとするもので、このテストに照らし合わせて誤りのない道を進もうということなのです。

2 番目、Is it FAIR to all concerned? 「みんなに公平か」です。フェアは態度を形容する言葉です。「to all concerned」、これは漠然とした「みんな」ではなく、かわりのある人たち、利害関係のある人たちに、正々堂々と後ろめたいことのないようにやっているかという意味ではないでしょうか。テスト 1 と併せて、真実に基づいて、関係する人全てに対してフェアになるようにすることが大切ではないでしょうか。

3 番目は Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS? 「好意と友情を深めるか」です。「Will it build」は、それ以下に続く事柄を自分で作り出そうとしているか、自分の意思を確かめていると思います。GOODWILL は英英辞典によると「好意」というよりも「善意」と訳したほうがベターではないかと思っております。FRIENDSHIP は複数形で「交友」とか「交友関係」に解釈したらいいかと思います。つまりこのテストは、自分の行動が善意の表れになっているかと自分で確かめて、その結果が交友関係を深めることにつながるかという自問であろうと推測いたします。

●『ミャンマーのその後』 水野 裕君



東南 RC のミャンマーに対する国際奉仕の事業活動は、宮崎年度から和英辞典、英和辞典で基礎を始めようということで、タイトルは「識字率の向上」となっております。今までに、ヤンゴンの外国語大学、マングレーの国際外語大学に英和・和英辞典を贈っております。

この活動は、名古屋外語大学のミンミンという留学生から辞書を贈ってほしいという申し出があり、それを片山先生が快く受けられて始まりました。そのあと、OISCA というグローバルな農業奉仕の団体から直接東南 RC へ、ミャンマーで井戸を掘ってほしいという申し出があったわけです。現地では川へ行って水を汲んできて各自タンクに入れて家庭用に使って使っていました。水汲みの仕事は子どもがやっており学校へ行くことができません。それで私どもは、井戸を掘る代わりに子どもは最低でも小学校に通学できるように両親に徹底してくれという申し出をしました。東南 RC と OISCA は、労働力は村民が総出でやるという条件付きでこの仕事をスタートしました。なぜ村民を入れたかということ、お金を見たことがないという人たちが多かったのが、現金収入の道を開くためです。労働すればお金がもらえるという意識を持ってもらいたいという考えがありました。おかげで村民は働く意欲が非常に強く出ました。ミャンマーは乾季と雨季しかありません。雨季のときは仕事にならないので、乾季のときに 1 年分の仕事をやるわけです。それが効果的に効いたようです。要望どおり 3 基の井戸を掘り、くみ上げポンプを設置しました。それが終わりますと、今度は池を造り、そこで魚を飼いたいという申し出がありました。魚は提供できませんので、相手側がアメリカから魚を持ってくるということで池を造りました。二つめの池は、農業用水であり、飲料水であり、各自が家庭で使う水を供給できるようにしました。